



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

**【あなたは自分を愛するように他人を愛することができますか？】
～自分まん中の社会 自分を高める世界に生きる～**

過日、柏中央保育園で職員研修を行い、多忙な中 11名の職員の参加がありました。テーマは
【(社福)童心会が求めている人財とは何ですか?】～私たちは今、この仕事を楽しんでいますか?～

研修の内容はいつもお話ししている(社福)童心会の経営理念

「自分を創る・人を創る」ことの意味からはじまりました。

『自分を育てていくために大切なことは、「人間性を高める」こと、
そして毎日の生活の中で自分を創っていくことである。

それは、慈悲(思いやり、すべてのものの喜びや悲しみに寄りそう心)と
智慧(実人生を生き抜く力)を身につけていくことです。

実人生を生き抜く力として、「がんばること・つづけること・がまんすること」も忘れてはならない。

子ども家庭庁では、「こどもまんなか」といわれているが、「自分まん中」にすることにより、

「社会科学・人間科学・自然科学」を学び、「自分を創る」ことができ、

「人を創る」ための訓えを知ることができる。そのためには、自分を創ることを忘れてはいけない。』

そしてたくさんの先生方からいつもの「1分スピーチ」の感想をいただきました。

最後に私が感動したスピーチの中から一編だけをご紹介します。

☞A先生のスピーチ

『「自分を創る」ということは、自分の人間性を高めていくことが大切であり、人として正しい生き方をしなければならぬと改めて感じました。自分を愛するように子どもを愛するという言葉に、まずは自分を愛することを大切に思わないとできないことだと思いました。また「自分まん中」ということに、驚きが隠せなかったのですが、研修を聞き、「自分まん中」にすることによって、自分を愛すること、人間性を高めていくことになり、「人を創る」ことに繋がっていくことになる事に気づくことが出来ました。今後、自分を愛しながら周りにいる人を愛していくことができるように頑張っていきたいです。ありがとうございました。』



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

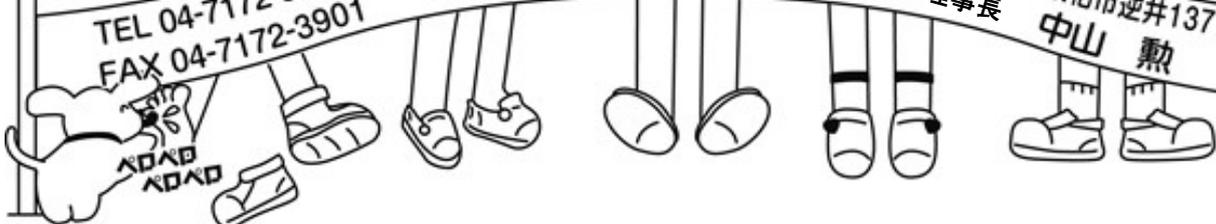


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

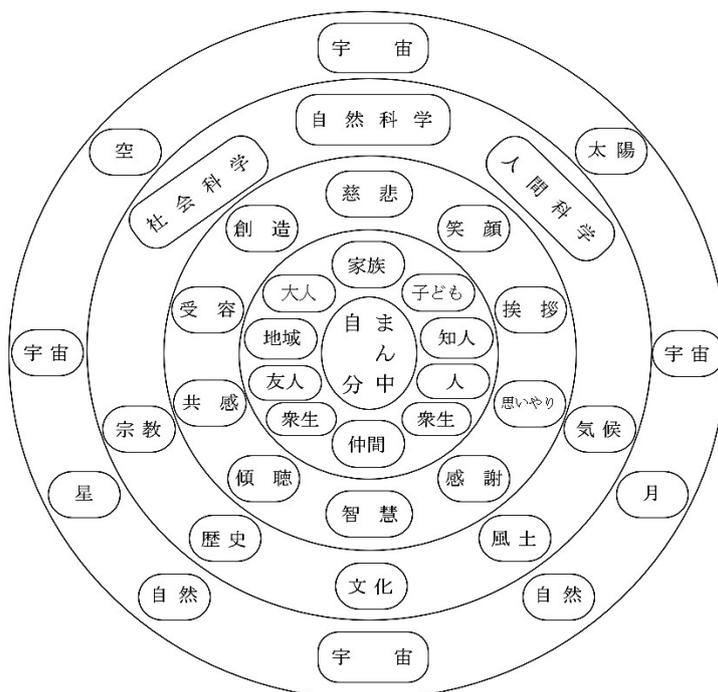
社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



冬きたりなば 春遠からじ

春は花 夏ほととぎす 秋は月
冬 雪さえて 冷(すず)しかりけり



今、改めて自分の人生の始まり、天命・天意による”生命の誕生”の歴史をふり返ってみた時、歩みのくり返しの中でRespect(尊敬・敬意)の念を持って”人間道(人間としての道理)”を習い、学び、歩むことを訓えられてきたように思います。しかし、このような「社会教育力」

①家庭の教育力 ②ご近所の教育力 ③子ども社会の教育力 ④学校の教育力 ⑤社会の教育力

がほとんど失われた今、私たち(社福)童心会は、「童心会Village(村)」の中に生きる家族として”人間としての生きる心得”の中から”人間道としての訓え”を習い、学び続けていかなければなりません。それは私たち(社福)童心会の保育目標である「思いやり(慈悲)と生きる力(智慧)」から生まれ育まれた”現代版:無財の七施”を実践することからはじまるのです。

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|--------------------|
| 1) 笑顔 | 朝からとびっきりの笑顔でおもてなし | 5) 傾聴 | やさしい眼差しで話に耳を傾けること |
| 2) 挨拶 | 思いやりが心にひびくご挨拶 | 6) 共感 | 共にある心、共に喜び、共に悲しむ心 |
| 3) 思いやり | すべてのものによりそう心 | 7) 受容 | あるがままをあるがままに受け入れる心 |
| 4) 感謝 | いつもありがとうの心を忘れない | | |

新年を迎えて、もう1ヶ月が過ぎ、2月は進級と新入園児を迎え入れる準備の季節となりました。私たちには”新たな自分を創る・人を創る”旅支度をはじめなければなりません。

2月4日は立春、二十四節気の一つ、春の始まりです！

今年も おだやかなる季節に巡りあうことができますように 心からお祈り申し上げます。

令和6年 2月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲